

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700138		
法人名	医療法人 島津会		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	四万十市駅前町5-20		
自己評価作成日	平成29年5月17日	評価結果 市町村受理日	平成29年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中村駅近くの商業地に位置し、民家が少ないため、地域住民との関わりが難しい面もあるものの、毎日、駅や公園に散歩に出かけたり、防災訓練に参加したり、神社の御神輿に来てもらうなど、周辺地域に溶け込めるよう、努力をしています。
また、おいしい食事の提供や毎日のレクリエーション、体操を通じて、利用者の心身の健康が保たれるように、家族と協力して支援しています。
母体の医療機関との連携体制も整っており、24時間365日安心して生活ができます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&JiyosyoCd=3970700138-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年6月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中村駅近くの商業地にあり「家族や地域の方との交流を支え、安心と尊厳のある生活」という理念の実現を目指してケアに取り組んでいる。近隣への散歩や、商店への買い物に毎日積極的に出かけている。近くの神社の御神輿が来たり、清掃活動や自主防災訓練には地域の一員として利用者と共に参加する等、地域交流に努めている。
管理者と職員は、特に利用者一人ひとりの人格を尊重した優しい言葉かけと態度を心がけており、職員間でも声をかけ合って、利用者中心の適切なケアの向上に努めている。そのかいもあって、利用者の表情は和やかで、明るく家庭的な雰囲気のある事業所になっている。
また、前回の外部評価を受け、管理者は、母体法人と連携してトイレ環境の改善に取り組み、利用者の自立した生活や、利用者同士の不安感の解消となっており、利用者との笑顔につながっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：1組

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の安心と尊厳のある家庭的な暮らしと地域交流を柱とする理念を揚げ、職員会などで常に振り返っている。利用者の人格を尊重した言葉かけや、散歩の時には地域住民と挨拶を交わす等、日々実践につなげている。	「家族や地域の方との交流を支援、安心と尊厳ある生活」という理念を、職員会や申し送りノートで確認し、共有している。特に、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや態度等、利用者中心の適切なケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会に加入し、事業所便りを回覧板で回している。地区の防災訓練には参加し、神社のお神輿が来てくれている。近くの作業所の訪問販売があったり、美容院の利用、JAや駅に買い物に行くなど、日常的に地域とつながって暮らしていけるように努力している。	地域の清掃活動、自主防災訓練に参加し、近隣住民とは日常の散歩や買い物時に会話を交わし、近隣商店からの差し入れもある。近くの神社の御神輿が来ており、利用者も楽しみにしている。夕涼み会について、近隣住民へ参加の声かけを検討中。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板で事業所便りを回し、日常的に散歩や買い物にも出かけて、事業所の存在や介護の在り方が自然に伝われば良いと思っている。相談があれば応じているが、事業所内の日々のケアが精一杯で、地域への支援まではできない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議には市や地区区長、家族の参加があり、率直な意見が聞かれている。出された課題はすぐ改善に取り組み、サービスの向上に活かしている。	会議には、地域代表や行政が必ず出席し、事業所からの現状報告や前回の外部評価結果報告・課題提起が行われ、参加者から助言や協力も得ている。出席していない家族には議事録を送付し、周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加をはじめ、事故報告や事業所便りの提出、介護保険や困難事例の相談を行う等、日頃から協力関係を築いている。	市とは、運営推進会議や事故報告・事業所便りの提出等、日頃から連絡を取り、協力関係を築いている。市には外部からの苦情や不適切ケア対策について相談し、ケアサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に「身体拘束廃止規定」「身体拘束がもたらす弊害」「禁止の対象となる具体的な行為」を配布して、外部研修へ参加している。日中は玄関の施錠はしていない。職員全員に身体拘束をしないケアを徹底している。	虐待等の研修に管理者や職員が参加し、職員会で伝達している。資料配付や職員アンケートを通じて、身体拘束の防止に努めている。玄関入り口の柵や離床センサーについては家族の同意を得て使用し、利用者への声掛けにも気をつけている。ケアに伴うリスクについても、家族の理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が気がついていないケースもあるため、外部研修や事業所内研修で「潜在する危険の把握」を学ぶとともに、虐待に繋がらないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に活用できるように、成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や契約内容改定時に契約書の内容を充分説明し、疑問点等がないかを尋ねて、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会で、気になっていることはないか意見や要望を聞いたり、アンケートを実施している。利用者には日々の関わりの中で要望を聞き、食事や外出援助などに繋げている。	利用者の思いは日頃の関わりの中で把握し、家族には面会時に声をかけて、意見や要望を聞いている。年2回の家族会の参加者が少ない時には、無記名のアンケートで意見の把握に努めている。家族の要望としてエレベーター設置が出ており、管理者は法人代表に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日常業務の中で業務改善や処遇の要望や提案を聞き、必要な事柄は法人にも働きかけている。	職員会時に意見や要望を聞いて勤務調整、休憩時間の声かけなどにつなげ、働きやすい職場づくりに努めている。昇給等処遇面・車購入の要望等は管理者を通じて法人代表に伝え、改善を図っており、職員のモチベーションの維持に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	警備会社との契約、福祉用具の購入、ストレスチェック、健康診断の実施、勤務時間の見直し、夜勤手当・処遇改善手当での増額など、常に働きやすい環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にできる限り参加し、スキルアップに努めている。また、職員一人ひとりが自分の足りないところを理解して、力量が発揮できるよう、事業所内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四万十市グループホーム連絡会を定期的に関き、管理者と介護職員が市内の他事業所を訪ねて意見交換を行うことで、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、思いや不安を傾聴して、安心してサービスの利用ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族と面談して、困っていること、利用に際して不安なことや要望などを時間をかけて聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向をもとにアセスメントを行い、必要なサービスを提供している。また、必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑や朝の掃除や食材切り、洗濯干しなどの家事を一緒にしたり、壁のレイアウトを作るなど、日常的に一緒に作業している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の来訪時には近況を伝えるとともに、気がついたことや要望がないかを聞いている。来訪の少ない遠くの家族には、お便りなどで様子を伝えている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や親戚の来訪があったり、帰宅や家族と外出の利用者の支援を行っている。馴染みの美容院やお店の利用ができる様、支援している。</p>	<p>利用者の友人や親類の来訪時には、ゆっくりと過ごしてもらえる配慮をしている。帰宅したり、家族の協力で月1回外出や外食、馴染みのJA直販所や商店での買い物により、これまでの関係継続に努めている。近く美容院では、新しい馴染みの関係が出来つつある。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>皆で一緒にお茶や食事をしているが、席やソファの位置を工夫して、気の合う利用者が話しをして、互いに支え合えるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も病院や施設に面会に行くなどして、本人・家族との関係が途切れないように努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に思いや意向を聞いて、ケアに反映させている。また、定期的に本人の意向を聞いて、「私の気持ちシート」を作成している。本人からの意向が把握できない場合は、家族の意向を聞いて検討している。</p>	<p>利用者の思いや意向を把握するために、センター方式の「私の気持ちシート」を担当職員が作成している。利用者には、日々の生活の関わりの中から思いを聞き、意思疎通が困難な場合は、利用者の表情や反応で確認に努めるとともに、家族からも情報を得るように努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所に際して本人・家族から生活歴や生活環境を聞いて把握している。入所後も会話の中で把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、表情やバイタル、食事・水分・排便・睡眠をチェックして、心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当職員が個別ケア表を毎日つけて毎月評価を行い、本人の状態と本人家族の意向を踏まえて、カンファレンスを通じて検討したうえで必要に応じて変更し、現状に即した計画を作成している。	管理者がアセスメントをし、担当職員の毎月1回のモニタリングを経て、本人や家族からの意見や要望をもとに6ヶ月に1回職員によるカンファレンスを行い、介護計画を作成している。介護計画の中で、利用者の状態変化時に見直しが出来ていない事例があった。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しはもとより、本人、家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直していくことが求められる。利用者の現状に即した今後の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア表・体温表・介護記録に日々の様子や気づきを記録して、カンファレンスや利用者処遇検討の場で話し合い、ケアの共有や実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院の利用や買い物、家族が行けない時の受診や通院など、できるだけ本人、家族のニーズに沿って柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅や公園の散歩、JAやドラッグストアへの買い物、美容院の利用や自立支援事業所の菓子販売、神社の御神輿見学など、地域資源を活かした生活ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、定期受診や急な受診等、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を受診しており、協力医である母体法人以外への受診は家族対応としているが、家族が行けないときは管理者が支援している。家族には情報提供書やバイタルチェック表を渡し、受診結果は申し送りノートに記録して、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師が来訪して、個々の利用者の状態を見て、必要な相談に乗ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は体温表や薬剤情報を添えて情報提供を行い、入院中は容態を見に行ったり、行けない時は電話で確認している。退院時にはカンファレンスに参加するなど、病院関係者とスムーズな関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針に沿って説明し、家族の意向を確認して同意を得ている。重度化した時は早めに再度家族に確認を行い、意向に沿って取り組んでいる。	看取りの指針を作成して、利用者が重度になった時は協力医、看護師、職員、家族で話し合いを重ね、最期はどこで迎えるか決めることにしている。最近急変時の死亡はあったが、看取り事例はない。看取りに関する所内研修は、未実施。	事業所での看取りを職員が不安なく行えるように、内部、外部での職員研修を充実させ、看取りへの知識と意識が共有できるようにすることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えて、職員はAEDの使い方や発熱、出血、骨折の応急処置の仕方を身につけている。事故発生時にはマニュアルに基づいて、協力病院に連絡し、医師の指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震後の火災を想定した消防訓練を年2回実施して避難先も決めている。浸水時の避難訓練も実施。防災マニュアルを見直し、職員に参集ルールなどを徹底している。地域の防災訓練に参加したり、区長の参加はあったが、地域住民との協力体制はできていない。法人の病院が近いため、協力を求めている。	年2回地震後の火災避難訓練と1回は浸水時の避難訓練を実施し、避難場所も決めている。防災マニュアルを見直し、夜間想定での避難訓練も実施している。避難訓練時には区長の参加はあったが、地域住民の協力は得られていない。非常用食料は、5日分を備蓄している。	運営推進会議等を活用して地域の自主防災組織との連携を深め、利用者が安全に避難できるよう、地域住民の協力を得た訓練が実施できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉使いや対応を常に心がけている。難聴者や理解力の低下している利用者へのトイレ誘導の声かけなども、優しい態度や言葉使いのできる様に心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、入浴や排泄時等に優しい言葉かけや態度に心がけている。職員間でも声を掛け合い、意識向上に努めている。利用者の情報の個別性や守秘義務について理解をし、個人情報の保護を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を聞くとともに、職員に話しやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間設定をしているが、起床や食事の時間は可能な限り本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には希望の服を選び、必要に応じて整容の支援も行っている。美容院の利用や衣類、髪留めの購入等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や状態に合った食事を作っている。野菜の皮むきや盛り付け、食後のトレイ拭きなどを利用者と一緒にやっている。	週に1回は刺身とたたき、季節の食材とバランスに配慮し、職員が交代で毎日献立を作っている。誕生日や季節の行事には特別のメニューを、年に1回は外食を楽しんでいる。利用者は出来ることを手伝い、職員と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて形態や食事を調整して提供している。1日の食事量、水分量をチェックして、必要な栄養と水分量が摂れる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて準備や介助を行い、毎食後口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でチェックして、立位の取れる利用者は排泄のサインを察知して、トイレで排泄ができる様に支援している。立位の取れない利用者は、安全面からもやむを得ずオムツを使用している。可能な利用者は、トイレでの排泄に向けて立位運動を行っている。	自立している利用者は少ないが、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。健康面から考慮しオムツ使用者もいる。夜間ポータブルトイレを使用している利用者には、日中トイレで排泄が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックして、運動や飲み物を個々に合わせて工夫して、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に入浴ができる時間帯を設定して、定着している。希望や必要があれば、その都度支援している。入浴についての希望を定期的に聞いている。	利用者の希望に沿って入浴を支援し、毎日の入浴希望にも、出来る範囲で支援している。入浴を拒否する利用者には言葉かけの工夫で支援している。清拭支援の利用者がシャワー入浴出来るようになる等、個々に合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝ゆっくり起床したり、その日の状態に合わせて休息する利用者もいる。また、日中は、体調に応じて横になってもらうこともあるが、レクや運動をして夜間は眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルして、職員が見られるようにしている。変更があった時は、申し送りノートに記載して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合った軽作業やレクリエーション、運動の支援を行い、気分転換や楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駅周辺や公園に散歩に出かけたり、希望に沿ってJAやスーパーへ買い物に行っている。家に帰ったり、孫のレストランに外食に行ったり、催し物、花見やドライブ、遠足の支援も行っている。	近隣への散歩や、JA直販所や近くの商店へ買い物をする日常的に支援をしている。月に1回、日曜日には、法人所有のリフト車を使用して、車イスの利用者も一緒にドライブに出かけている。また、年に1回、外食や弁当を持って花見に出かける等の外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外部から販売に来た時など、自分で支払いができる様に支援している。また、自分でお金を所持して買い物する利用者いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時や品物が届いた時などの、本人から親族への電話支援、毎年本人が家族に年賀状を書いて出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々に壁のレイアウトを変えて、季節感を出せるよう工夫している。採光や温度湿度には、毎日気をつけて管理している。ワンフロアのため、テレビの音が大き過ぎないように配慮するとともに、利用者が安全に移動できて寛げる様にも配慮している。	共有空間では、季節感を大切にし、利用者で作成した貼り絵や折り紙、季節の花が生けられている。1階階段入り口の簀の子や、階段壁面のペイント画にも工夫している。トイレ環境については、母体法人の協力で改修され、利用者の自立した生活や不安感解消につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファは、皆と一緒にあったり、気の合った人と過ごせる様配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、家族にはなるべく自宅で本人が使っていた家具などを持参するよう相談している。自室にはテレビや家族が来た時に一緒に撮った写真、好きな絵や物を飾ったり、置ける様に支援している。	利用者の好みに応じてくつろげる居室になるよう、テレビ、タンス、洋服がけ、花等が置かれ、壁面には、家族写真、カレンダー、ぬり絵が飾られている。事業所は、家族の協力も得て、殺風景にならない居室づくりに心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の力を活かして車椅子で安全な移動ができる様に、フロアやテーブル席などを工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名：2組

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の安心と尊厳のある家庭的な暮らしと地域交流を柱とする理念を揚げ、職員会などで常に振り返っている。利用者の人格を尊重した言葉かけや、散歩の時には地域住民と挨拶を交わす等、日々実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会に加入し、事業所便りを回覧板で回している。地区の防災訓練には参加し、神社のお神輿が来てくれている。近くの作業所の訪問販売があったり、美容院の利用、JAや駅に買い物に行くなど、日常的に地域とつながって暮らしていけるように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板で事業所便りを回し、日常的に散歩や買い物にも出かけて、事業所の存在や介護の在り方が自然に伝われば良いと思っている。相談があれば応じているが、事業所内の日々のケアが精一杯で、地域への支援まではできない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議には市や地区区長、家族の参加があり、率直な意見が聞かれている。出された課題はすぐ改善に取り組み、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加をはじめ、事故報告や事業所便りの提出、介護保険や困難事例の相談を行う等、日頃から協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に「身体拘束廃止規定」「身体拘束がもたらす弊害」「禁止の対象となる具体的な行為」を配布して、外部研修へ参加している。日中は玄関の施錠はしていない。職員全員に身体拘束をしないケアを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が気がついていないケースもあるため、外部研修や事業所内研修で「潜在する危険の把握」を学ぶとともに、虐待に繋がらないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に活用できるように、成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や契約内容改定時に契約書の内容を充分説明し、疑問点等がないかを尋ねて、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会で、気になっていることはないか意見や要望を聞いたり、アンケートを実施している。利用者には日々の関わりの中で要望を聞き、食事や外出援助などに繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日常業務の中で業務改善や処遇の要望や提案を聞き、必要な事柄は法人にも働きかけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	警備会社との契約、福祉用具の購入、ストレスチェック、健康診断の実施、勤務時間の見直し、夜勤手当・処遇改善手当での増額など、常に働きやすい環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にできる限り参加している。また、職員一人ひとりが自分の足りないところを理解して、力量が発揮できるよう、事業所内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四万十市グループホーム連絡会を定期的に関き、管理者と介護職員が市内の他事業所を訪ねて意見交換を行うことで、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、思いや不安を傾聴して、安心してサービスの利用ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族と面談して、困っていること、利用に際して不安なことや要望などを時間をかけて聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向をもとにアセスメントを行い、必要なサービスを提供している。また、必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑や朝の掃除や食材切り、洗濯干しなどの家事を一緒にしたり、壁のレイアウトを作るなど、日常的に一緒に作業している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には近況を伝えるとともに、気がついたことや要望がないかを聞いている。来訪の少ない遠くの家族には、お便りなどで様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の来訪があったり、帰宅や家族と外出の利用者の支援を行っている。馴染みの美容院やお店の利用ができる様、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒にお茶や食事をしているが、席やソファの位置を工夫して、気の合う利用者が話しをして、互いに支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も病院や施設に面会に行くなどして、本人・家族との関係が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に思いや意向を聞いて、ケアに反映させている。また、定期的に本人の意向を聞いて、「私の気持ちシート」を作成している。本人からの意向が把握できない場合は、家族の意向を聞いて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に際して本人・家族から生活歴や生活環境を聞いて把握している。入所後も会話の中で把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、表情やバイタル、食事・水分・排便・睡眠をチェックして、心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当職員が個別ケア表を毎日つけて毎月評価を行い、本人の状態と本人家族の意向を踏まえて、カンファレンスを通じて検討したうえで必要に応じて変更し、現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア表・体温表・介護記録に日々の様子や気づきを記録して、カンファレンスや利用者処遇検討の場で話し合い、ケアの共有や実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院の利用や買い物、家族が行けない時の受診や通院など、できるだけ本人、家族のニーズに沿って柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅や公園の散歩、JAやドラッグストアへの買い物、美容院の利用や自立支援事業所の菓子販売、神社の御神輿見学など、地域資源を活かした生活ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、定期受診や急な受診等、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期健診以外に協力病院の看護師が来訪して、個々の利用者の状態を見て、必要な相談に乗ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は体温表や薬剤情報を添えて情報提供を行い、入院中は容態を見に行ったり、行けない時は電話で確認している。退院時にはカンファレンスに参加するなど、病院関係者とスムーズな関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針に沿って説明し、家族の意向を確認して同意を得ている。重度化した時は早めに再度家族に確認を行い、意向に沿って取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えて、職員はAEDの使い方や発熱、出血、骨折の応急処置の仕方を身につけている。事故発生時にはマニュアルに基づいて、協力病院に連絡し、医師の指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震後の火災を想定した消防訓練を年2回実施して避難先も決めている。浸水時の避難訓練も実施。防災マニュアルを見直し、職員に参集ルールなどを徹底している。地域の防災訓練に参加したり、区長の参加はあったが、地域住民との協力体制はできていない。法人の病院が近いため、協力を求めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉使いや対応を常に心がけている。難聴者や理解力の低下している利用者へのトイレ誘導の声かけなども、優しい態度や言葉使いでできる様に気にかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を聞くとともに、職員に話しやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間設定をしているが、起床や食事の時間は可能な限り本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には希望の服を選び、必要に応じて整容の支援も行っている。美容院の利用や衣類、髪留めの購入等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や状態に合った食事を作って一緒に食べている。野菜の皮むきや盛り付け、食後のトレイ拭きなどを利用者と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて形態や食事量を調整して提供している。1日の食事量、水分量をチェックして、必要な栄養と水分量が摂れる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて準備や介助を行い、毎食後口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でチェックして、立位の取れる利用者は排泄のサインを察知して、トイレで排泄ができる様に支援している。本人、家族の希望でポータブルトイレ使用者が1名おり、安全面からやむを得ずオムツを使用している利用者も、1名いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックして、運動や飲み物を個々に合わせて工夫して、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に入浴ができる時間帯を設定して、定着している。希望や必要があれば、その都度支援している。入浴に関しての希望を定期的に聞いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝ゆっくり起床したり、その日の状態に合わせて休息する利用者もいる。また、日中は、体調に応じて横になってもらうこともあるが、普段、日中はレクや運動をしてなるべく離床し、夜間は眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルして、職員が見られるようにしている。変更があった時は、申し送りノートに記載して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合った軽作業やレクリエーション、運動の支援を行い、気分転換や楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駅周辺や公園に散歩に出かけたり、希望に沿ってJAやスーパーへ買い物に行っている。家に帰ったり、孫のレストランに外食に行ったり、催し物、花見やドライブ、遠足の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外部から販売に来た時など、自分で支払いができる様に支援している。また、自分でお金を所持して買い物する利用者いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時や品物が届いた時などの、本人から親族への電話支援、毎年本人が家族に年賀状を書いて出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々に壁のレイアウトを変えて、季節感を出せるよう工夫している。採光や温度湿度には、毎日気をつけて管理している。ワンフロアのため、テレビの音が大き過ぎないように配慮するとともに、利用者が安全に移動できて寛げる様にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファは、皆と一緒にあったり、気の合った人と過ごせる様配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、家族にはなるべく自宅で本人が使っていた家具などを持参するよう相談している。自室にはテレビや家族が来た時に一緒に撮った写真、好きな絵や物を飾ったり、置ける様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では掴まりながら移動できるよう工夫したり、フロアでは、シルバーカーや歩行器、車椅子で安全な移動ができる様に、テーブル席などの配置を工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				